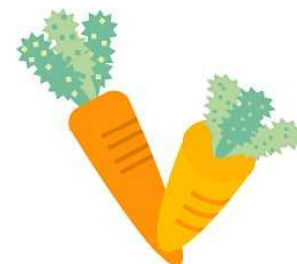


# にんじん（春） しゅんぎく

		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
		上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
にんじん しゅんぎく													

## にんじん春作

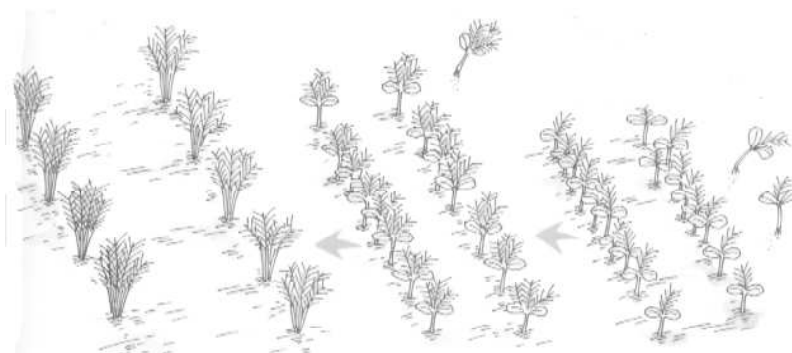


### 播種

- ・ すじまき又は一カ所に2～3粒蒔き、覆土用の土を準備しておきうすく覆土し軽く鎮圧する。

### 間引き

- ・ 本葉2～3枚ころ混み合っているところを2～3cm間隔に間引く
- ・ 本葉5枚目が展開するまでに10cm間隔に間引く



### 換気

- ・ 30 以上にならないように換気する、ただし急激な換気は葉やけを起こすので注意する。

### かん水

- ・ 急激な水分変化は裂根の原因となる。特に大雨時の横からの浸水により急激に水分変化する場合に裂根するのでこまめにかん水し水分を一定に保つ。

### 温度管理

- ・ 4月上旬からは、ハウスを全開放する（屋根かけのみ）その前10日以上前からハウスのサイドをあげて寒さに慣らす。

## しゅんぎく

<b>特性</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 涼しい気候を好み、生育適温は 15 ~ 20 (最低 5 ・ 最高 27 ) であるが、暑さ・寒さともに比較的強い。</li><li>・ 秋まき栽培は気温がある程度下がり、抽苔のおそれも少なく、最も作りやすい作型であるが、病害に注意する。</li></ul>
<b>播種量</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 3.5 ~ 4L/10a ( 直播き栽培 )</li></ul>
<b>本圃の準備</b> <p>適地の選定</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 膨軟で保水力のある土壌を好み、推肥施用の効果は大きい。</li><li>・ 排水対策を行い、過湿を防ぐ。</li><li>・ 全面施肥、酸性に弱いため pH6.0 以上に保つ。</li></ul>
<b>栽培密度</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 栽植距離：畝幅 120 cm、条間 26 ~ 28 cm</li><li>・ 播種：種子はすじ播きとし、うすく覆土する。</li></ul>
<b>間引き</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 播種後 15 日 ( 草丈 2 cm 位 ) 頃に株間 2 ~ 3 cm に 1 回目の間引きを行う。</li><li>・ 2 回目は、1 回目間引き後 15 日頃 ( 草丈 5 ~ 6 cm 位 ) に株間 10 ~ 12 cm で行う。</li></ul>
<b>追肥</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 追肥は約 1 ヶ月おきに葉色を見ながら時期・量を変えて行う。</li><li>・ 葉が肥料やけしやすいので収穫直後に施す。</li></ul>
<b>かん水・換気</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 品質の向上・低温期の生育促進と寒風による葉傷みを防ぐため、10 月よりサイドの開閉を行う</li><li>・ 過湿によるべと病の発生予防に努める。</li><li>・ 乾燥しやすくなるので、灌水に努める ( C a 欠乏症の防止 ) 。</li><li>・ 日中気温が上昇する場合 ( 特に、秋、春先 ) は、できるだけ換気を行う。</li></ul>
<b>収穫</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 1 回目の収穫は主茎を地際 3 cm 程度残して摘み取る。</li><li>・ 2 回目以降は次々に腋芽を摘んでいくが、この場合は葉柄を短め ( 2 cm 以内 ) に残しておく。</li><li>・ 親株に残す葉数は 4 ~ 5 枚とし、腋芽は 1 株に 3 本位とする。( 茎の大きい腋芽を仕立てる ) 。</li><li>・ 3 月より抽苔が始まるので、摘蕾を行う。</li></ul>